



エコミュージアム
日本村

彩色園の小史

～共有した楽しい思い出として



2014年3月15日

NPO自然文化誌研究会／植物と人々の博物館
東京学芸大学環境教育研究センター

木俣美樹男



雨ニモマケズ、風ニモマケズ、
雪ニモ夏ノ暑サニモ負ケヌ
丈夫ナカラダヲモチ、慾ハナク、決シテ瞋ラズ、
イツモシヅカニワラツテヤル、
一日ニ玄米四合ト、味噌ト少シノ野菜ヲタベ、
アラユルコトヲ、ジブンヲカンジョウニ入レズニ、
ヨクミキキシワカリ、ソシテワスレズ、
野原ノ松ノ林ノ蔭ノ、
小サナ萱ヅキノ小屋ニ年テ、
東ニ病氣ノコドモアレバ、行ツテ看病シテヤリ、
西ニツカレタ母アレバ、
行ツテソノ稻ノ束ヲ負ヒ、
南ニ死ニサウナ人アレバ、
行ツテコハガラナクテモイトイヒ、
北ニケンクワヤソシヨウガアレバ、
ツマラナイカラヤメロトイヒ、
ヒドリノトキハナミダヲナガシ、
サムサノナツハオロオロアルキ、
ミンナニデクノボートヨバレ、
ホメラレモセズ、クニモサレズ、
サウイウモノニ、ワタシハナリタイ

宮沢賢治作

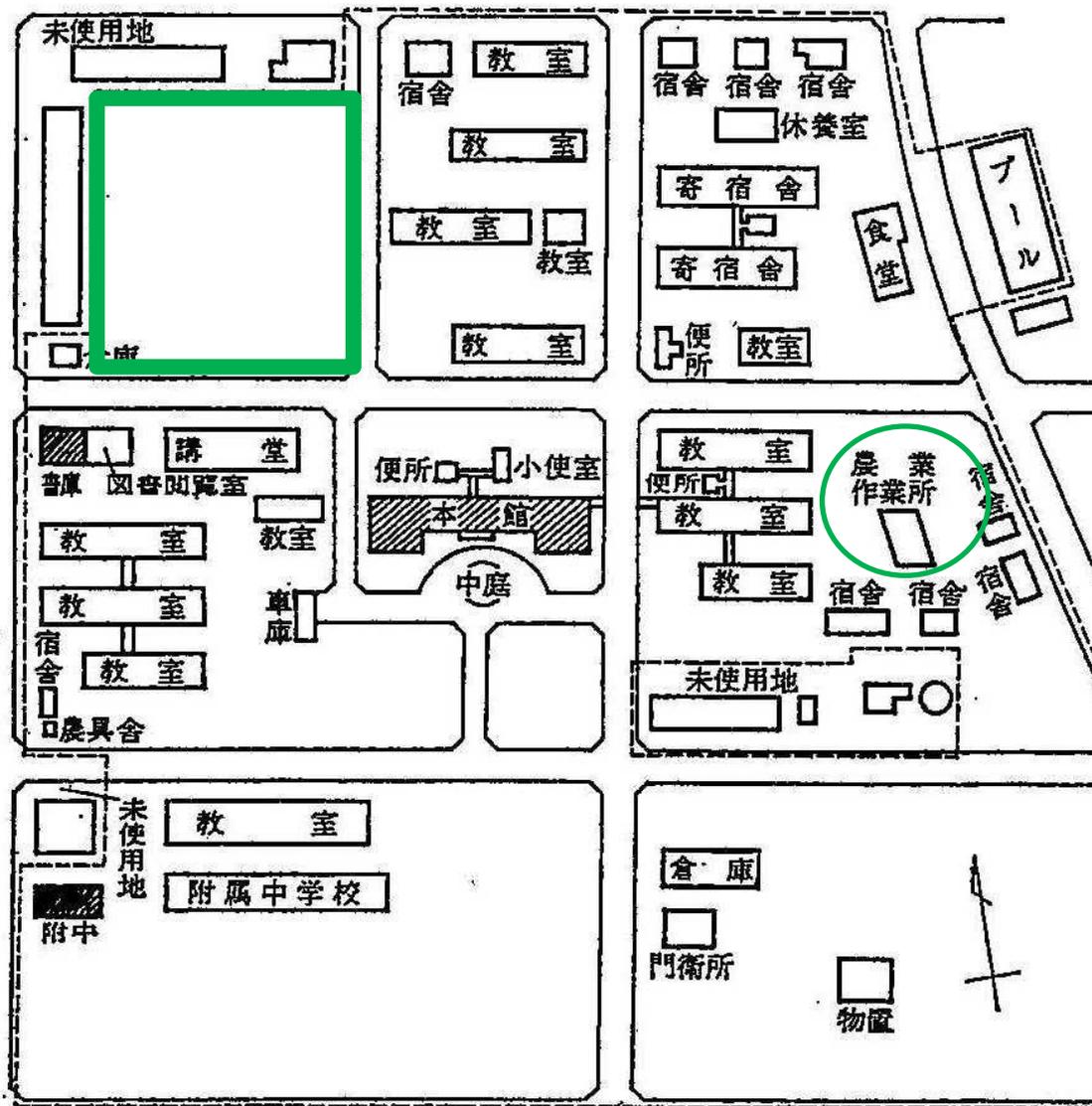
1. キャンパスの整備

- 畑地に雑木林と点在するボロ校舎1946年
- 施設整備を開始する1953年
- 道路の舗装が完成1959年
- 造園計画が進む、田代良一技官の尽力。

東京学芸大学五十年史(1999)

2. キャンパスと農場の変遷

- 1946年 東京第二師範学校校地(仮)移転
南北の境はほぼ同じだが、東は本町小学校の西まで、西は附属中学まで。約5万坪。
- 1949年 東京学芸大学創立、第一師範学校農場廃止。
- 1951年 青年師範学校調布農場廃止(現電気通信大学)にともない、代替として世田谷農場を設置。
- 1953年 第三師範学校農場および小平農場廃止(現小平寮)



東京都北多摩郡小金井町貫井780番地所在
 東京第二師範学校男子部小金井校地
 (東京学芸大学小金井分校へ引継)
 昭和26年現在

土地面積	43,264.840 ^坪	
建面積	3,557.950	延面積 3,979.615 ^坪
コンクリート造	115,000	115,000
木造	3,442.950	3,864.615

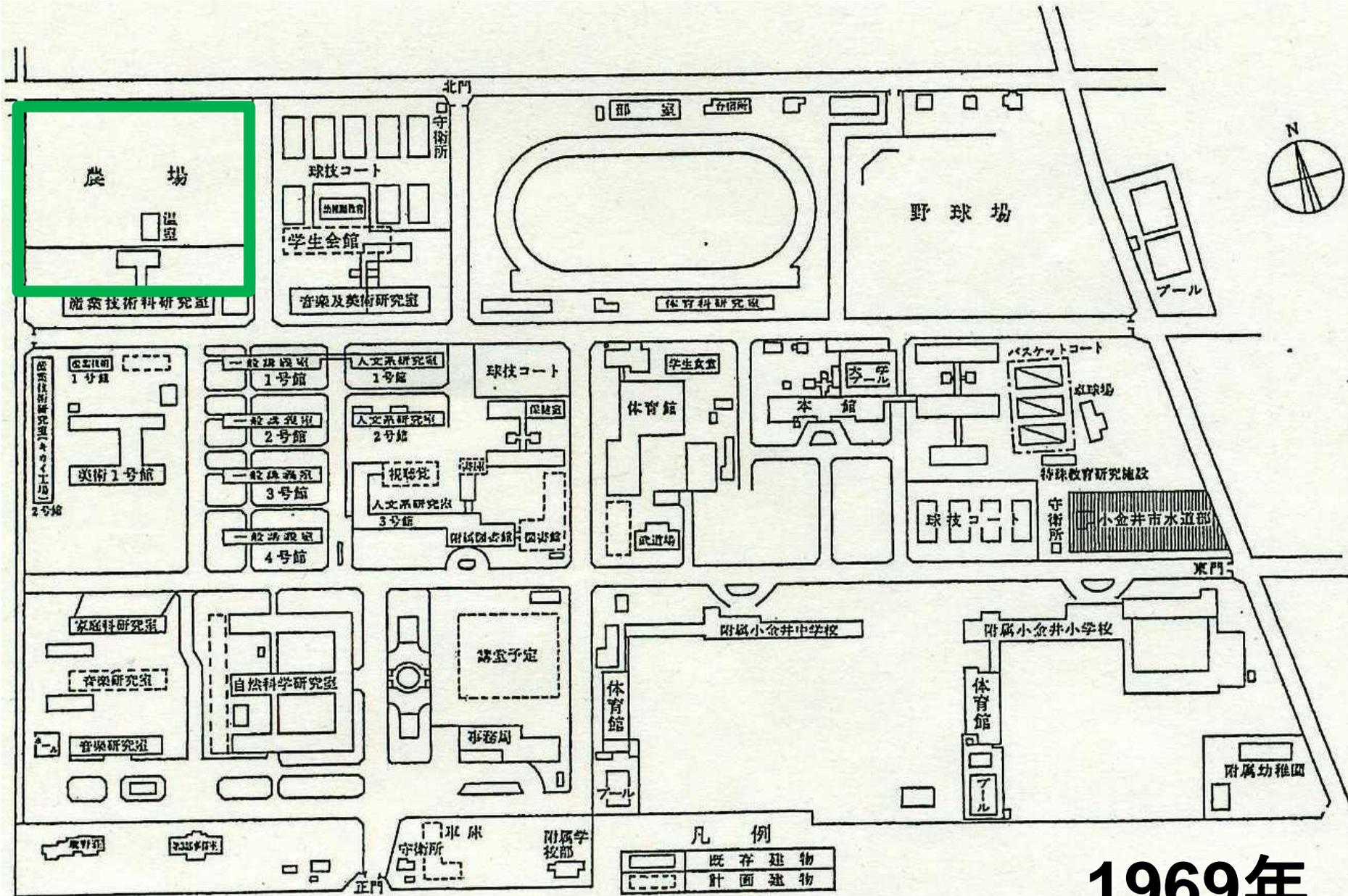
■は二階建



図1—7 東京第二師範学校校地 (仮)

- 1954年 小金井農場設置。旧家庭科、美術科、技術科棟も畑として開墾されていた。
- 1956年 東京学芸大学小金井分校。
- 1958年 現在とほぼ同じ(10万坪)に配置が決まった。
- 1961年 世田谷農場廃止。
- 1962年から65年 研究棟新設にともない、小金井農場縮小。
- 1963年 東久留米農場の一部に雄迪寮設置。
- 1965年 東久留米農場の一部に附属養護学校設置。

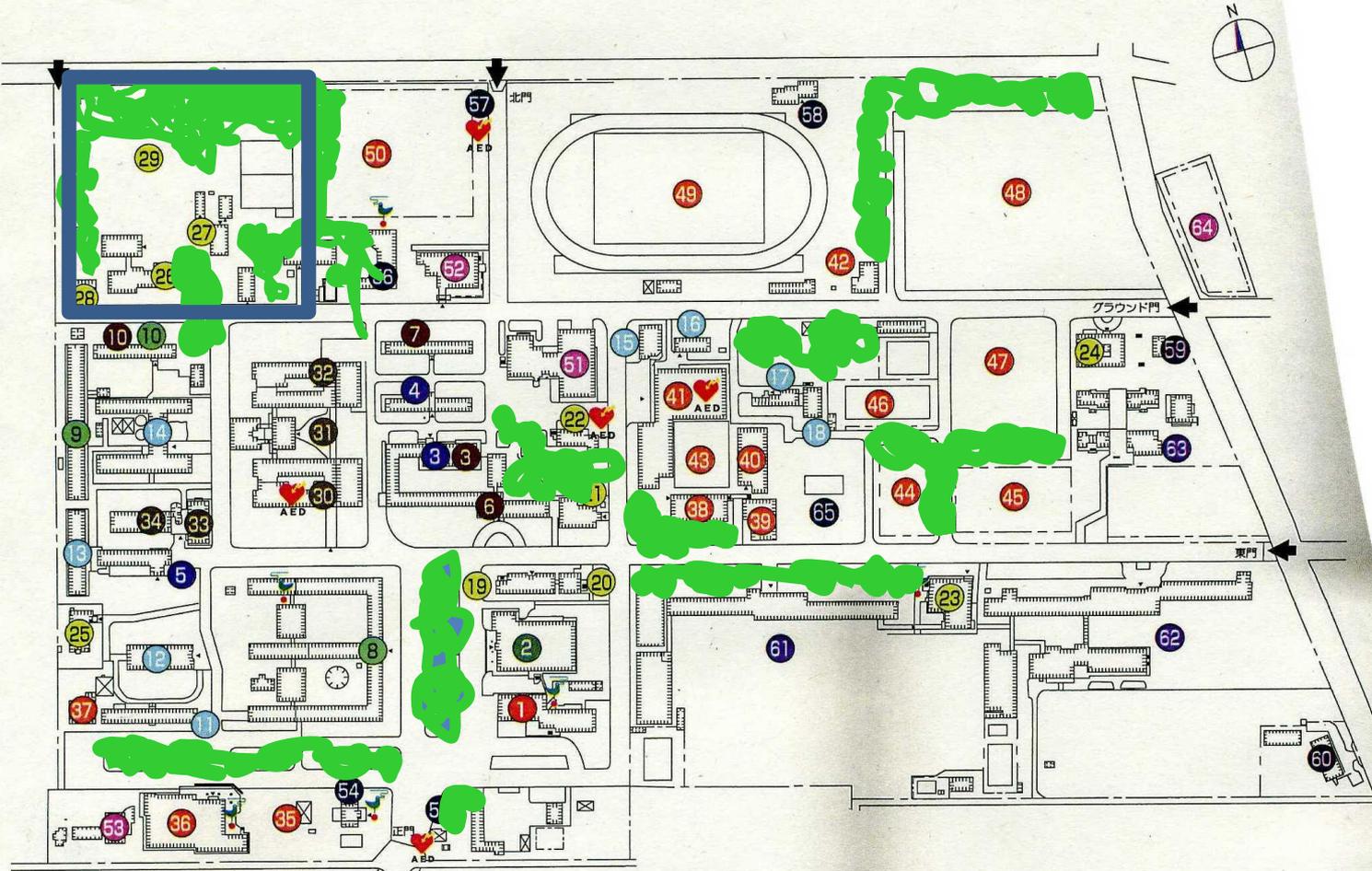
- 1974年から76年 東久留米農場廃止、代替として小金井農場の充実、水田12a設置。
- 1980年 農場管理棟新営。
- 1987年 小金井農場を改組して、野外教育実習施設設置(省令)。
- 1994年 環境教育実践施設へ改組。
- **2011年** 環境教育研究センターに改称



1969年

図1-9 東京学芸大学小金井地区配置図 (1969年3月末現在)

小金井地区建物配置図



指定喫煙所(灰皿)

AED(自動体外式除細動器)配置

本部棟(入試課含む) ①

附属図書館 ②

総合教育科学研究棟 ③~⑤

人文社会科学系研究棟 ⑥, ⑥, ⑦, ⑩

自然科学系研究棟 ⑧~⑩

施設センター ⑬~⑲

講義棟(学務部・留学生センター) ⑳~㉔

芸術・スポーツ関連施設 ㉕~㉗

福利厚生施設(学務課(大学院)) ㉙~㉛

その他 ㉜~㉞, ㉟

2010年

彩色園小史

～附属農場から環境教育研究センターへ
の変遷



農業科から環境科へ

- 1946年 農業科 甲乙類、各40名
「農業」必修 2単位
- 1974年 職業科教育課程(農業) 5名
その後、教養系ができて廃止
- 教養系: J類自然環境科学(自然史選修)、F類環境教育専攻、教育系: A類環境教育2015年?
- 附属農場、野外教育実習施設、環境教育実践施設、環境教育研究センター
- MC環境教育コース、DC教育構造論講座

附属小金井農場(学則)



小金井農場への外圧(1974～2010)

難題の連続

- 東久留米農場を移管する
- サッカー場
- 駐車場
- 附属高校
- 小金井市ゴミ処理場

秩父分室、小菅分室

秩父多摩甲斐国立公園での学習活動

- 大滝エコミュージアム（秩父分室 1991～2000）
大学公開講座「冒険学校」、環境教育中堅指導者研修会
- エコミュージアム日本村（小菅分室2007～）
植物と人々の博物館プロジェクト

最後の旧教室



レンゲと花壇



小動物舎



小金井第2小学 校養護クラス



藁草履制作実習、身体感覚遊具



板垣先生指導



お玉が池と水田



附属小学校の 新茶摘み



野外教育実習施設(省令)



大菩薩峠、野外実習と探検部山行



環境教育実践施設 (省令)



**GP総合演習、
チェンマイの
ドリアンの木**

大学院小菅巡検、大地の恵み祭



学部小菅巡 検と聞き取り 調査



環境教育研究センター(法人学則)



学部小菅巡検



インド亜大陸各地にて海外調査



中央アジアにて海外調査



内モンゴルにて海外調査



インドとイギリスのカウンターパート



インドからの海外調査



タイからの環境教育調査



種子貯蔵庫とさく葉室



GLOBE生徒集会、生物季節、花の匂い



民族植物学の最終講義 今野さん撮影



早春の彩色園2014



謝辞

ユーラシアのお百姓たちはじめ、下記の諸先生ほか数えきれないほどの方々に支えられて、彩色園を拠点として調査研究の半生を過ごすことができました。心よりお礼を申し上げます(失礼御容赦:敬称略、所属当時)。

降矢静夫、中川智、岡部良雄、守屋秋子(山村農)、青柳諭、亀井雄次、木下善晴、木下夫妻(ミューゼス研究会)、貝沢吉哉(民宿チセ)、阪本寧男、河野昭一(京都大学)、小林央往(山口大学)、渡辺隆一(信州大学)、福田一郎(東京女子大学)、山本紀夫(国立民族学博物館)、堀田満(鹿児島大学)、坂本憲一(国連大学)、安孫子昭二(都立埋蔵文化財センター)、古守豊甫(古守病院)、高木文雄、石橋隆明(森とむらの会)、石川英夫、大脇知芳(農村開発企画委員会)、大前純一、高野孝子(ECOPLUS)、加藤三郎、藤村コノエ(環境文明21)、愛知和夫(自由民主党)、A.シタラム、シヴァナンダイア(農科大学バンガロール)、コーパ(国立植物遺伝資源局)、ザキール(ウズベク植物産業研究所)、R.エレン(ケント大学)、M.ネスビット、T.コープ、リニントン(王立キュー植物園)、L.カンハスワン、シリワット夫妻(ラジャバト・プラナコン大学)の皆様に。東京学芸大学では、大森暢之、阿部猛、北野日出男、榊原雄太郎、赤澤英二、小川博久、長浜功、西村俊一、平野具男、蓮見音彦、岡本靖正ほかの諸先生に。彩色園で学ぶ市民の皆様、豊田篤治、木内知美はじめ農学教室、環境教育教室、環境教育研究センター関係教職員、自然文化誌研究会冒険探検部、ちえのわ農学校関係の卒業生、学生の皆様に。最後に、小林淳男ほか家族に。

楽しい時間を、長らく 一緒に出来て
ありがとうございました



連絡先： 植物と人々の博物館
kimatami@u-gakugei.ac.jp
URL: <http://www.milletimplic.net/>
<http://www.ppmusee.org/>

TM Mikio Katsunbou Kimata